

生活や遊びの中で、時間的な大まかな区切りのあることがわかる（昨日・今日・明日など）

遊びの種類

1. 朝の集いなど・・・
月・日・の発表
朝食・夕食のメニューの発表
休日の発表
2. 時計づくり・カレンダーづくりなどで
時間がある事に気付かせる
3. 写真入りの一日の流れを提示する
4. 絵カード遊び(順番に並べる)
5. わらべうた
「あぶくたった」「今何時？」



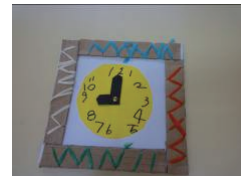
カレンダー



子どもの見える
場所に時計を置く



一日のながれ



時計づくり

この遊びにはこんな意味があります。

毎日の月日や曜日を確認したり、朝、昼、夜の出来事を話題にすることは時間に順序があることを知る機会となります。園、所でその日の活動を前もって知らせる工夫することは、子ども達が見通しを持って生活する力を育てることにつながります。時計は読めなくても「長い針が〇〇のところになったら、給食（お弁当）。」という生活の時間の区切りを子ども達に示してあげるとは、生活の流れが、時計で区切られることを知ることにもつながります。最近、デジタル時計を使う家庭が増えたのか、時刻は理解できても、時間が実感できない小学生が増えています。過去にあったことは、すべて「きのう」未来のことはすべて「あした」大きさは「大きい」「小さい」の二つで捉える時期をすぎて、三つの量を比較したりできるようになると時間も「昨日—今日—明日」の捉え方ができるようになるといわれています。園・所での生活や活動はその橋渡しをする大切な役割を果たしているといえることができます。

応用・工夫

- ・生活や遊びの中で、時間的なおおまかな区切りのあることがわかる。
(昨日・今日・明日など)
- ・季節の認識は8歳児レベルのものであるが、季節ごとに保育者が知らせていく。

第5章 家庭・地域との連携について

1. 家庭との連携

子どもの育ちは妊娠期から始まっており、子どもは家庭を基盤として育ちます。子どもが大切にされている、愛されていると感じる関わりが基本的信頼感を育み、安定した拠りどころを起点として、自分から人やものに関わり自主性、主体性を育んでいきます。信頼できる大人との関係を基に、基本的生活習慣の自立や規範意識の醸成など適切な援助を通して自分で自分をコントロールする自律性を育み、集団の中で自信を持って活動できるように育っていきます。生涯にわたる基盤を培う乳幼児期の保育は、家庭とともに進めることが特に重要となっています。

子どもの育ちに大切なことを保護者と共有していくことが大切です。子どもが安定した生活リズムを基に様々な活動を自らの力として育っていくためには、家庭とともに進めていくことが必要です。価値観の多様化や保護者の状況などにより、大切なことも保護者の受け止めは様々ではありません。一人一人の保護者に合った伝え方が必要になることもあります。子どもを大切に思いながら、関わり方によっては、子どもの育ちにつながらない場合もあります。子どもの行動を先回りして問題を片付けてしまい子どもの自主性が育たない場合、子どもまかせで規則的な生活リズムが身に付かない場合などがあります。家庭で子どもを育てるのは保護者です。保護者の思いを聴き、保護者に学ぶ姿勢も必要です。子どもの育ちに合った関わり方を学び合えるよう、家庭とともに子どもを育んでいくことが重要です。

就学前教育では、保護者との信頼関係を育み、子どもの成長を喜び合い、保護者が自信を持って子育てできるよう支援していくことが大切です。めざす子ども像の共有や、子どもの発達のつながり、子どもの育ちに適した関わり、就学に向けて必要なことなど、手引きを活用して取組みを進めていきます。

また、特に支援を必要とする子どもや家庭には、保護者の気持ちを受け止めながら様々な関係機関と連携して支援をすることが必要です。

ここでは、保育所・幼稚園・こども園で取り組んでいる家庭との連携の仕方や様々な取組み事例を記載しています。

1) 家庭との連携で留意すること

- 保護者の気持ちを受け止め、保護者の話を傾聴する。
- 保護者一人一人の自己決定を尊重する。
- 日々の保育を通して信頼関係を築く。
- 連絡を密にとる。
- 子どもの育ちに大切なことをともに取り組む。
 - ・大切なことを知らせる。
 - ・子どもの成長の喜びを共有する。
- ルールは保護者に分かりやすく簡潔に知らせる。
 - ・ルールは肯定的な表現を用いる。

2) めざす子ども像の共有

園の保育・教育目標を伝え、家庭でどんな子どもに育てたいか、保護者の思いを知り、保護者の思いを尊重しながら、めざす子ども像を共有していくことが必要です。子どもの今の姿を大切にするとともに、見通しを持った子育てを進めていけるように取り組みます。

① めざす子ども像に向けて大事にすること

- ・ 大人がモデルになる。
- ・ 子どもが愛されている、受容されていると実感できるよう、スキンシップや言葉、態度で表す。
- ・ 子どもの気持ちを受け止め共感的に話を聞く。
- ・ 楽しく食べる環境をつくる。
- ・ 食事・睡眠・運動などの生活のリズムを整える。
「早寝」「早起き」「朝ごはん」「朝うんち」「運動」
- ・ 基本的な生活習慣の自立に向けて、段階に応じた援助をする。
- ・ 子どもと一緒に体を動かしたり、絵本を見たりして楽しむ。

② 取組み事例

保育・教育目標を伝える

時 期	対 象	方 法	内 容
入園前	不特定多数	ホームページ 冊子リーフレット	入園案内や園概要に掲載
入園説明会	入園決定児の保護者	冊子 パワーポイント	入園のしおりなどに掲載
入園後	入園児の保護者	口頭 おたより配布	入園式や懇談会 4月の園だよりに記載
常時	入園児の保護者 来園者	掲示	見やすい場所に紙に記載して掲示

保護者から伝える

入園説明会	家庭から園に伝える文書様式に記載してもらう
入園後	家庭訪問・個人懇談時に個別に話し合う

保護者の声を聴く

- ・ 意見箱を設置して直接言いにくい意見を聴けるようにする。
- ・ アンケートを毎年実施し、結果を公表し保護者会で話し合う。話し合いの結果も含め再度保護者へ情報提供する。アンケートは「行事や保育について」「改善してほしい点」など基本的事項について毎年同じパターンで実施する。
- ・ 送迎時、懇談会・個人懇談等を活用する。
- ・ 担任以外に相談できる人を知らせておく。

3) 子どもの姿・子どもの育ちの共有

日々や月々、節々で子どもの姿や育ちを伝え合い、子どもの成長を喜び合うようにします。連絡を密にとり、必要時には直接連絡をとって、課題の解決は早期に取り組むようにします。

時 期	方 法	内 容・配 慮
毎 日	クラスノート 掲示板	日々の子どもの姿と保育内容
	個人用連絡ノート	3歳未満児は必ず、3歳以上児は必要時 必要な場合は電話・送迎時・家庭訪問などにより直接話す
毎 月	園だより	集団生活で大切にすること・行事
	クラスだより	毎月の子どもの姿と保育内容
	けんこう・保健だより	季節の健康管理の啓発
	給食だより・食育だより	給食・栄養・食育に関する啓発
	個人のメッセージカード	一人一人の成長を文章で共有
	マイカレンダー	一か月の保育内容を記載し、園の活動を親子で把握し関心を持ってもらう
誕 生 会	誕生カード	成長を喜び合う
	保護者からの お祝いメッセージを紹介	成長を文章で共有
	子どもの夢や好きなものを 家庭に伝える	会の様子を写真で紹介
懇 談 会	懇談会・保護者会	パワーポイントを活用
	個人懇談・ 家庭訪問	個々の子どもの様子を伝え合う
随 時	ホームページ	日々の保育内容や行事など写真を入れて紹介する 写真掲載の了解をもらう

伝えにくいことを伝える場合心がけていること

- ・子どもの良い点を伝えて、課題を伝える。
- ・保護者の良い点・頑張っているところを認めて伝える。
- ・相手に応じて直接的な表現で伝えたり、間接的な表現で提案したりする。

4) 交流の場

保護者と子どもとの交流や保護者同士の交流の機会をつくり、自分の子どもだけでなく他の子どもにも目を向ける、関わる、信頼される関係づくりの機会や、さらに身近な地域でのつながりにつながるようにします。子育ての楽しさや悩みなども保護者同士で話し合える機会になるよう取り組んでいます。保育者は、保護者同士がつながるきっかけづくりやつながりやすいよう援助するなど、コーディネーターとしての役割が求められています。

① 子どもと保護者の交流の場

- ・行事などは、保護者が子どもとともに楽しめるようにする。
- ・参観や運動会で子ども達と保護者が触れ合えるようなプログラムを実施し、体を通して心の交流を持ち、成長を実感できるように工夫する。

〔取組み事例〕体験保育士（一日保育士体験）

目的	半日から一日、子どもと一緒に保育所で生活し遊ぶことを通して、保育所の生活や子どもの姿を知るとともに、関わり方など子育てのスキルを学び合う。保育者や他の子どもとの関わりを広げる。
対象	全保護者
時間	午前9時15分～午睡前
日程	子どもの誕生月の平日で保護者の希望日
内容	子どものクラスで保育者として一緒に過ごす。一緒に遊びや活動、給食も体験する。他の子の身の回りの援助も行う。絵本や紙芝居を読んでもらったり、得意なことをしてもらったりすることもある。体験後個人懇談をし、感想を聞き日頃の様子などを伝え合う。
保護者の声	・子どもの生活がよく分かった。 ・子育てのヒントになった。 ・他の子どものことも分かって知り合える機会となって良かった。 ・他の子どもに送迎時や道で会った時に話しかけられたりすると嬉しい。

今日は
お友達のママが
先生だよ！



② 保護者同士の交流の場

- ・ 参観日や諸行事を保護者同士の交流が持てるような内容にする。
- ・ 保護者会活動を通して園の活動に協力してもらうとともに、園としても保護者会活動に協力し、保護者同士の人間関係が良好に保てるよう働きかける。
- ・ 保護者が行事の準備等の役割を担い、ともに活動することを通して保護者同士、また保護者と職員との交流を行う。
- ・ 保護者会など保護者が自分たちの力を出し合って自主的な活動を通してつながっていくための支援をする。

交流のための工夫

・ 楽しく関わる機会をつくる

- ふれあい遊びなど保護者同士でも楽しめる時間をつくる。
 - 保護者同士の競技やゲームなどのプログラムをつくる。
 - ティータイムの時間をつくる。
- （保護者会が行い、その間子どもの保育をして援助している園もある）

・ 一緒に活動する機会をつくる

- クッキングや製作など保育の中で保護者同士の共同作業の場面をつくる。
- 手作りおもちゃや遊具などを一緒に作る機会をつくる。

・ 送迎時に交流する

- 子ども同士に関わり合いなどから、つながる話題やきっかけを提供する。

・ 保護者掲示板で交流しあう

- 「こんなときどうしてる？」などテーマを決めて「うちの場合」カードに書いて貼るなどの交流から、話が進むようになる。

例：泣かないで頭を洗うには？ 野菜嫌いの子に食べさせるには？

・ 話し合いは5・6人のグループです

- グループのメンバーが偏らないように配慮する。
- 全員が自分の話を聞いてもらえるようにする。

5) 保護者への支援

家庭での子育てに役立つような支援、子育ての悩みや園生活から生まれる子ども同士・保護者同士の関係の悩み、様々な困りごとを相談できるよう支援していきます。また、園では対応できない課題に対しては、地域や子育ての様々な資源や機関・団体などの紹介や連携した支援が必要です。

① 困った時は相談

- ・ 困った時は園に相談できるという信頼関係を大切にする。
- ・ 親同士の人間関係などで悩む保護者の気持ちを受け止める。
- ・ 情報の提供や連携ができるように、園として制度や資源、機関・団体を把握しておく。

② 大切なことを共有し家庭での子育てに生かす支援

- ・ 週1回の絵本貸出等を行い、保護者に絵本の大切さ、読み聞かせの大切さを知らせる。
- ・ 親子で絵本を見るコーナーをつくり、園として推奨する絵本を紹介したり、絵本を選ぶ相談に対応したりする。
- ・ 園で育てた野菜などの収穫、食育の講演会、クッキング（料理実習）などを通して食育指導を行い、食育の大切さを知らせる。
- ・ 食育コーナーを設置し、給食の献立やレシピの紹介を分かりやすく掲示したり、配布したりする。保護者から家庭で工夫している献立などを募り、紹介し合う。
- ・ 子どもが試行錯誤しながら行う様子を温かく見守り励ますよう提案する。
- ・ 子どもが喜ぶふれあい遊びや体を使った遊び、手作りおもちゃなどを知らせ親子で楽しく遊べるようにする。

絵本の貸出
もう一回
読んで！



6) 就学に向けた連携

市として知らせることのできるものはまとめて保護者に知らせ、就学までの見通しができるようにしていきます。

① 小学校での生活を知らせる

- ・ 準備するものをあらかじめ伝えておく。
- ・ 登下校のルールなどを伝える。
- ・ PTAなどの保護者の活動を知らせる。
- ・ 学校行事や発表会などの活動と保護者の参加について知らせる。

② 保育所・幼稚園の取組みを知らせる

- ・ 小学校入学に向けて、保育所・幼稚園がどのように子ども達に関わっているか、伝える。

③ 家庭で取り組むことを知らせる

- ・ 早寝・早起きの生活リズムを整える。
- ・ 朝食を食べる。
- ・ 身の回りの準備・片付けをする（自分の場所をつくる）。
- ・ 自分のことは自分でしようとする。
- ・ 文字に関心をもつ（絵本の読み聞かせ、自分の名前、文字遊び）。
- ・ 登下校する道を知る(子どもと一緒に確認する)。

④ 就学までのスケジュールを知らせる

- ・ 年長になってから入学までに、どのように子どもの生活リズムを整えていくと良いか、知らせる。
- ・ 用具類、衣類などの購入時期や購入場所、健康診断の時期など一年間のスケジュールを伝える。

⑤ 個々の子どもの育ちを確かめ合う

- ・ 個人懇談で小学校に送付する要録などを通して確かめ合う。
- ・ 就学に関する相談は、児童相談課・教育政策課と連携する。